

天遊 Ten You

大阪教育大学広報誌

OSAKA KYOIKU UNIVERSITY
PUBLIC INFORMATION MAGAZINE

Summer 2019 Vol.48



授業探訪

新任役員紹介
新津 勝二 理事

ラボ訪問

STUDENTS NOW!

卒業生CATCH!

BAGの中身

附属学校園ウォッチ

ゼミ室こぼれ話

TOPICS

特集

大教大のキャリア支援 ～低年次からキャリアを見据えて～

大教大
NAVI

天

アプリを利用すれば、今号の「天遊」に関連した動画が視聴できます。

「大教大NAVI」アプリをダウンロードして、左記のアイコンと同じボタンをアプリ内でタップするとカメラ画面に切り替わります。次に左記のアイコンをカメラに読み込めると、動画が視聴できます。

詳しいアプリの使い方はホームページをご参照ください。



国立大学法人
大阪教育大学



大教大のキャリア支援

～低年次からキャリアを見据えて～

昨年(2018年2月)、教員就職や企業公務員就職へ向けたサポート体制の中心である**キャリア支援センター**が、教育振興会および同窓会 天遊会の協力を受けて**リニューアル**しました。
立地を以前の事務局棟から、大学会館2階の共通講義棟と食堂を繋ぎ学生たちが頻繁に行き交う動線上に移し、スペースを拡大し、さまざまな機能も集約しました。
学生たちの利便性とセンター機能の向上を実現した**新しいキャリア支援センター**をご紹介します。



Interview

本学の使命とともに 一人ひとりの目標を 達成させる支援

キャリア支援センター長 手取 義宏
教員養成課程 社会科教育講座 教授

本番期 多岐に渡る就職支援行事

教員・企業・公務員就職それぞれに多種多様な支援行事を学部3回生、夜間4回生、院1回生の春から本格的に実施しています。

就職の手引『CAREER SUPPORT HANDBOOK』として、最新の就職状況や卒業生の進路先、教員就職、企業公務員就職に関する様々な情報、キャリア支援センターの支援、年間行事、利用方法を掲載したオリジナルのハンドブックを全学生に配布。

その他、教員採用試験の情報が詰まったデータブックのほか、様々な冊子や資料もタイムリーに提供しています。また、個別相談はもちろん、教員就職支援では教採対策講座(面接、模擬授業、場面指導対策など)、教育委員会・私学の採用担当者を招いた説明会を実施。企業公務員就職支援では、ガイダンスや各種講座(面接、グループディスカッション対策)、学内での合同企業セミナーや業界研究セミナーなど、センターが実施する本番期の支援行事は教員企業公務員就職合わせてその数は年間170回以上にのびます。



キャリア支援センター
リニューアル!
大学会館(M棟)2F

① オープンスペース

各教育委員会や官公庁企業などの個別採用説明会、面接対策やグループディスカッション対策、インターンシップなどのミニ講座をセンター内で実施できる多目的スペースです。ここでは、企業公務員就職アドバイザーと話せるキャリアランチタイムなど、気軽に参加できる催しも実施しています。

② PCコーナー

求人情報検索、ガイダンス予約や、適性検査、講座の録画視聴など就活に関することに使用できるパソコンを設置しています。

③ 事務スペース

キャリア支援センター所属の教員やアドバイザー、職員が常駐しています。
(センター開室時間)
平日8:30～17:15

④ 資料コーナー

大学に届いた求人や企業から届いた会社案内のファイル閲覧、各教育委員会の募集要項や、学内で実施したガイダンスの配布資料、就職に役立つ様々な情報など、自由に手に取ることの出来る資料がたくさんあります。また、会社四季報や、業界研究に役立つ書籍、筆記試験・SPIの対策に向けた参考書など就職に関する様々な書籍の貸出も行っています。

⑤ 個別相談ブース

教員アドバイザー、企業公務員アドバイザーが個別相談に対応しています。エントリーシート添削や、個人面接の練習はもちろん、就職に関するあらゆる相談に応じます。キャリア支援センターの利用は、個別相談も含め全学年が利用できますので、教員採用試験について聞きたい事、企業官公庁でのインターンシップのエントリー先相談など、就職に関して気になり始めたり相談したいときなど、新入生時から卒業時まで相談に応じています。

低年次向け キャリア関連授業とキャリアガイダンス

主に低年次向けに、教職への意欲をより高めるために毎回、学校現場から教員を招いて様々な角度の話を聞く「教職キャリア形成論」や、将来のキャリアについての考え方を知り、その大切さを理解する「キャリアデザイン」、「キャリア教育」などの授業科目があります。また、新入生、2回生全員に『OKU Career PASSPORT』を配布するとともに、センターでの本格的なガイダンスが始まる学部3回生(夜間は4回生)になるまでにしっかりと自身のキャリアを意識して大学生活を送れるようキャリアガイダンスを実施しています。また、センターが実施するガイダンスや説明会には全学年対象としているものも多数あり、センター利用、個別相談も含め低年次に対しても幅広く支援しています。

保護者向け 保護者対象就職説明会

学部2,3回生向の保護者を対象に「保護者対象就職説明会」を実施しています。教員就職・企業公務員就職それぞれの就職支援体制についての説明、採用動向などの最新情報の提供などを行っています。



今年5/18(土)実施の様子



大教生はどんな授業を受けているのか？
講義室をのぞいてみました。

倫理学基礎演習

教員養成課程 社会科教育講座 ^{くらもと} 倉本 ^{かおり} 香教授

倉本先生の研究室。中央に置かれたテーブルとそれ以上に年季の入った深緑のモケット生地のソファに学生たちが自由に着席するとアットホームな雰囲気です。授業が始まりました。「授業は各自が興味のあるテーマに関連する本を選んで発表する形ですが、少しサポートする場合があります。「人間らしさとは何か？」というテーマで今日の最初に発表した学生は、AIに興味があるということで難しい論文ではなくSF小説『アンドロイドは電気羊の夢を見るか?』を紹介しました。基礎演習なので卒業論文を書くための準備のような授業で、毎回二人が発表し、全員で討論をします」。有意義な討論になるように、発表者にはレジュメを事前に提出させ指導を行い、そのうえで参加者全員に当日のレジュメをあらかじめ読んできてもらうようにしているとのこと。授業内では、前提条件をきちんと共有し理解したうえで活発な討論ができるよう必要に応じて先生が適宜解説を行います。

発表の後の議論では、人間とAIの違い、動物との違いは、逆にAIとは何かなど視点を変えながら意見が交わされ、倉本先生はところどころに議論の風向きの軌道修正やヒントの香りを自然な助言で学生たちへ散りばめます。「学生には、たとえ突飛な意見であったとしても思考実験として意識して発言するようにと伝えています。また、そもそも哲学・倫理学は固くて難しい研究というイメージがあるので、実際のところは卒論の技術的な指導よりも、哲学・倫理学の議論に対して心のバリアを取り除き、議論したら意外と面白いことをわかってもらうことに重点を置いています。そうしていくうちに、粘り強く考え、抽象的に物事をとらえ、多面的・多角的に考えられる力を身に付けてほしいと思っています。問いの立て方、議論の進め方の理解も重要です。また、批判する力もとても大事です。ただ、学生同士で議論を戦わせるのは慣れるまでは少し難しいそうです。大切なのは前向きな批判、議論のための批判。その意義を理解して豊かな時間にして欲しいのです。」

学生の発表は続きます。ニーチェを題材にした二人目の発表では、「生の肯定」についての議論から、様々な個性や可能性を持つはずの生徒に画一的な教育を施すことはどうなのか、また、もしも教師のあり方にニーチェの言う「超人」の思想が許容されたならどんな学校になるだろうか？「新しい価値の創造」を自由に作り出せる教育の必要性や、すでに試みられている新しい枠組みの学校について話題が及ぶなど、学校教育制度における新たな価値の創造を目指そうとする教員養成大学の学生ならではの議論へと自然に展開していきました。学生たちが選んだテーマはほかには、「心と体は一体化するか」、「アドラー心理学から教育を考える」、「何のために生きるのか？レヴィナスの享受論から」、「功利主義をより洗練させる」等々、哲学・倫理学にまつわるストレートなテーマもあれば、教育に関連するテーマも。学生たちは、この授業で引き続き様々なテーマ発表を経験し、自由に思考を巡らせながら考えることの楽しさを味わい、試行錯誤しながら卒論の題材を模索します。



【授業DATA】

対象学年：学部3年生
主な対象学生：学校教育教員養成課程
社会科教育コース
開講期：2019年度前期 木曜2限

物理学基礎

教育協働学科 理数情報講座 ^{つじおか} 辻岡 ^{つよし} 強教授

学生たちで賑やかな講義前の教室。理数情報講座・辻岡強教授が慣れた様子で授業の準備を整えます。脚立の上に電磁石で細工されたT字の吊り下げ器具、羽とマグネットが入った真空デシケータにポンプ、それから小さい猿のぬいぐるみを脇に添えました。「前は重力のもとでの運動についてでした。今日は、この典型的な応用問題、モンキーハンティングについて…」教室の空気はにわかに引き締まり講義がはじまりました。「猿が木にぶら下がっている。猟師が猿を狙っている。銃の引き金を引くと同時に猿が危険を察知して手を放し下に落ち始める。さあ、弾は当たるか当たらないか？弾は銃から離れた瞬間に重力がかかり軌道がずれていく。同時に手を離れた猿と発射された弾の相対的な墜落距離は同じになり、最終的に弾は猿に当たるという課題です。これが物理的にどのような数式で表されるか、まず座標系をとって…」軽快にチョークの音が響き黒板が数式で埋まっています。「猿の最初の高さはH、そこから時間Tだけ経過した…Tに先に求めた数値を入れると…。さあ、これとこれは一緒。これで弾が命中するということと言える。では実際に実験してみよう。手伝ってくれる人！」黒板の数式を見つめていた学生たちの真剣な表情が再び和らぎ実験に移ります。代表の学生が狙う先のお猿のぬいぐるみにうまく当たると拍手。外れると落胆の声が漏れました。「当たらないのはズレができる要因があるせい。前回スポンジボールとゴルフボールを落とす実験をしました。落下時間に差ができる要因は空気存在からくる摩擦力。現実の世界では摩擦が一番大きい」。この後、斜面を滑り落ちる場合の物体に作用する力などを運動方程式で説明したり、アポロ15号が月で行った真空中の落下実験を真空デシケータ内で演示するなど授業が展開していきました。

「この授業は1年生対象で、物理の体系でいうと他にも熱力学、電磁気学、量子論などもあり、この「物理学基礎」はそれらの前半部分。後期開講の「物理学概説」が前期の続きとなり物理の体系全体を理解するという形です。つまりこの授業は物理の素養のようなもので、このような基礎と概説の講義が物理、化学、生物、地学それぞれにあり、自然科学の学生はほぼすべてを受講することになり、そうして自然科学の全体を知りそれを土台にして2年生3年生で専門を深めていきます。学生たちによく言うのですが、最初から自分の専門分野を狭くとらず幅広く勉強してほしい。発展している分野は様々な知識を融合させた分野です。物理で1年生2年生が学ぶものは所詮100年前の知識でしかないのです。幅広い知識を土台にしてそこから先に行くため自分の可能性を見つけて欲しいのです。実際、私の研究室では物理と化学の融合領域を行っていますし、幅広い学びは逆に狭い分野で研究を進めるうえで役に立つことにもなります。」

ひきつづき辻岡教授の授業「物理学基礎」は1年生に自然科学の芽を育むきっかけとなる基礎を伝えてゆきます。今回の実験で使ったお猿のぬいぐるみはサキチという名前がついているそうです。弾に見立てたボールにあたったり上手によけたりしながら数式の証明と現実での誤差という両方の事実を学生たちに伝える役割を終えたサキチはどことなく満足げに見えました。



【授業DATA】

対象学年：主に学部1年生
主な対象学生：教育協働学科 理数情報専攻
自然科学コース
開講期：2019年度前期 木曜3限



新任役員紹介 新津^{にいつかつじ}勝二 理事に聞く！

【略歴】

2015年4月～2017年3月 文部科学省生涯学習政策局
情報教育課情報教育振興室長
(併)初等中等教育局視学官
2017年4月～2019年3月 国立大学法人九州大学総務部長
2019年4月～ 国立大学法人大阪教育大学理事・
事務局長(総務担当)

これまでの経歴を含め、 自己紹介をお願いします。

子どものことが大好きで、今でも学校の先生になりたいと思いながら仕事をしています。

平成元年の学習指導要領改訂と同時に文部科学省に採用され、幼稚園から高校までの学校教育を統括する初等中等教育局を中心に、幅広く教育行政の仕事に携わってきました。文部科学省には、教育、文化、スポーツ、科学技術などたくさんの部局がありますが、私は面接の時に「子どものことが好きなので初等中等教育局で働きたい」と希望し、それが叶ったのです。入省後は、教育課程の基準改訂、幼児教育、海外子女教育、特別支援教育、情報教育などを担当したほか、大学の部課長として出向したこともありました。

文部科学省での勤務について 詳しくお聞かせください。

国会答弁に対応する時など終電で帰宅する日も多く、自分の時間が欲しいと悩んだこともありました。しかし、たくさんの教育関係者や企業等の方と一緒に仕事ができ、学校の現状を知るためにほぼ全ての都道府県に出張し、たくさんの学校園を訪問することもできました。その時の経験や人脈が、今では私の一番の財産になっています。

先生になりたいと思った理由は何ですか。

二つあります。一つは、子どもたちが何かに興味関心を抱いた時のキラキラした瞳が好き。先生だったらそんな機会をたくさん作ることができます。二つ目は、未熟な私を時には叱り、時には励ま

し勇気を与えてくれた恩師の存在。50年たっても人の記憶に残る職業はあまりないのではないのでしょうか。

結果として先生にはなりませんでしたが、教育行政という立場で先生方を応援し、子どもたちの教育に携わることができる今の仕事には喜びとやりがいを感じています。

本学の印象を教えてください。

実は5年前に、柏原キャンパスを訪問したことがあります。駅直結でエスカレーターがあると事前に調べていましたが、駅からの坂道と途中の階段がきついなと感じました。しかし、実際に働いてみると、キャンパスの周りは自然豊かで静かなので、仕事に集中できる素晴らしい環境だと思うようになりました。それと、今年の入学式で公式キャラクターに会いましたが、とってもかわいいですね。ゆるキャラグランプリで競ったら必ず優勝するのではないのでしょうか。由来もデザインも学生さんの手によるものと聞きましたが、関連グッズをもっと増やしてアピールできたらいいなと考えています。

大阪での生活はいかがですか。

私は埼玉県出身で今は千葉県に自宅がありますが、大学に出向した2回は、いずれも東京都内の勤務でした。3年前、九州大学総務部長として福岡県に行ったのが初めての単身赴任で、続けて大阪にきたわけですが、福岡以上に住みやすくてとても気に入っています。印象としては、福岡はきれいな海と美味しい食材に温かい人柄、大阪はきれいな緑とたこ焼きにボケ・ツツコミといったところでしょうか。まだ数か月しかたっていないので、これからもっ

と新しい発見があるかもしれません。吉本新喜劇も見に行きたいです。

総務担当理事・事務局長としての役割と、 今後の抱負をお願いします。

私の役割は、本学の土台を支える縁の下での力持ちだと考えています。10年、20年後の未来を見据えた教育改革が進行する中、本学は教員の養成、研修を担う教育大学として、附属学校も含めた改革が進行中であり、それをサポートしていきたいと思っています。また、大学にとって広報や地域貢献も重要なミッションですので、学生の皆さんの斬新なアイデアや積極的な協力をお願いしたいと思っています。

趣味や息抜きはありますか。

趣味はゴルフと料理です。ゴルフと健康維持のために、スポーツクラブで日々体を鍛えています。料理は結婚してから週末に作っていましたが、単身生活で三食自炊するようになり、だいぶ腕が上がりました。時折開催するホームパーティが息抜きになっています。

本学学生に向けて メッセージをお願いします。

予測の難しい未来社会を担う中心は今の子どもたち。そんな社会の宝物である子どもたちの可能性と特性を伸ばす一番の中心は学校の先生です。50年たっても子どもたちの記憶に残る素敵な先生になってください。応援しています！

VISIT THE LAB



インタビュー動画が
見られます。

大教大
NAVI 天

▶ 役に立つ情報から安全な日々の実現をめざして

「学部・大学院修士課程は農学、博士課程は工学系と渡り歩き、学部・大学院を通じ環境科学や自然災害科学を学びました。大学教員で災害を専門とし、人工衛星等で地球環境モニタリングをしていた父親の影響が大きかったと思います。」そう語るのは健康安全科学講座・後藤健介先生。工学学位取得ののち、日本学術振興会の特別研究員として私立大学の地理学研究室へ。そこでこれまでの理系と大きく異なる文系のアプローチ手法を知り、幅広い分野での視野を持つ重要性を実感し、自然災害の研究をそれが生じる地理、つまり環境モニタリングに発展させます。その後、長崎大学の熱帯医学研究所へ助教として赴任し、アフリカ、アジアでの環境や自然災害と感染症および健

康との関係を研究。医学の分野へ飛び込んだことでさらに視野を広げ、ある分野の考え方や手法を他の分野へ応用する面白味を感じます。「経済学の手法を医学関連のデータに応用するなど一見無謀に感じるような手法で新たな発見をしたり、以前は医学分野であり使われていなかった人工衛星データを広い範囲で見る必要のある自然災害発生後の感染症などに応用したりしました。試行錯誤しながら、畑違いの医学分野での8年間は辛かったですが、これが現在の研究や教育姿勢に大きく影響することになりました。」

その後、本学の学校危機メンタルサポートセンターの准教授として着任し(現在は兼任)、現在の教育協働学科健康安全科学講座の准教授となり

教育協働学科 健康安全科学講座

後藤健介 准教授

GOTO KENSUKE



ます。農学、工学、地理学、医学そして安全教育と様々な分野を渡り歩き、糧にしてきた力の源を伺うと、「小さい時からコツコツタイプで、自分で試行錯誤しながら進めることが好きだったことでしょうか。もちろん失敗も多く経験しました。学生時代に経験した失敗は現在の安全教育の研究の根底に刺さるような糧にもなっています。ですから学生時代は、最初から正解のありかを求めず、失敗も含めて自分の力で試行錯誤しながら探してほしいと学生たちによく言います。マイペースで一歩ずつ、ゆっくりでも良いので。そのほうが周りの環境がしっかりと見える。受けた恩やそれに対する感謝、感じたちょっとした幸せなんかもです。」

本学学生の印象を伺うと、「良い意味で、時間の空間、感覚がゆっくり流れていると感じます。そういうゆとりは大切で、例えば転落したいとか他のことをやりたいというようなデリケートな話を意外と周りに素直に話している。心を開き、違う考え方を尊重して協力しあう、まさに協働する空気を強く感じます。学生たちには、そんなニュートラルになれる環境で丁寧に、違う分野とのかけ合わせや出会いを大事にして好きなことを全部やってほしい。自分の心をオープンにする4年間にしてほしいです。」

今後の研究については、「安全教育分野は、何かを見つけて大発見!という分野ではなく、ある意味コツコツと信頼や地域との連携などを築きあげてやっと安全な環境が実現できる。目に見えず評価しづらい分野ですが、だからこそ何気ない環境や毎日が続く尊さを伝えたいです。安全教育、危機管理全般に言えることですが、気の緩みからのミス、つまり『ヒューマンエラー』の積み重なりが人の命が失われる原因になります。そんな『ヒューマンエラー』をできるだけ起こさないための知識、経験を広げたいです。私の研究室名は安全情報学研究室とありますが、人工衛星データの解析しかり、データというものは人に伝わり社会に役立って初めて『情報』となるので、そんな研究をめざしていきたいです」とのこと。先生のまなざしは遠く宇宙からのデータを通して身近で尊い安全とそれを学ぶ学生たちに温かく注がれ、幅広い視野の大切さを伝えます。



教育で世界をつなぐ 夢にもまっすぐ！

大学院教育学研究科社会科教育専攻 3回生 かた やま もと ひろ 片山 元裕さん (近畿大学附属高等学校卒)

「人」というワードがインタビュー中何度も出てきたのは、今回の取材対象者で大学院社会科教育専攻3回生の片山さん。留学を含め在学中の「人」との出会いが今の学びや方向性に大きく影響したと言います。

「小学校教員志望に決めたきっかけは人です。教育への思いを留学先の学生と語り合い、現場で授業をした経験が大きかったです。その2度の留学も大学で仲良くなった中国人や韓国人留学生の友人たちの影響。そのうち社会科の研究熱も強まり大学院へ進学して今に至ります。留学では自分の長所や強みはつなぐ力だと実感した経験もあり、自分は教育において、社会科教育を土台に日本と世界をつなぐ役割を担いたい。そのための学びを追究し備えた先生になると決めました」と語ります。

現在の研究内容は日本と韓国の児童の市民性の違い。「峯先生の韓国・ソウル教育大学の教授との共同研究の一環で、5月にソウル市立ミョンウォン初等学校で実践授業をさせていただく機会がありました。少子化に対する国家と個人の考え方の対立を題材に授業をしましたが、僕の韓国語にも授業のテーマにも児童は臆することなく参加してくれました。一番驚いた点は、多くの児童が根拠を持って女性の権利を大切にしたいという意見を述べたことで『#MeToo運動』により女性の人権が注

目を浴びている韓国らしい結果かと考えます。細かな分析はこれからですが、現地ではソウル教育大学の教授と博士課程在籍の先生方にも指導いただき、授業検討会にも参加し学びの多い時間となりました。

将来については、「小学校教員なので、ほかの教科の知識も当然必要ですが、専門の社会科にこだわりを持ち続けたい。グローバルな視点を児童たちに学んでほしいので、日本の社会だけではなく多様性を理解して物事を学び考える力を身につける授業をしたい。」と語りました。

一見柔らかな雰囲気の方の片山さんですが、「議論好きで、いい加減な同意もしません。あと、本を読んだりじっとして学びを得る勉強よりも人と話して何かを得るのが好きです！とにかくいろんな人とできるだけたくさん話して、教育以外の分野からも教育のためになることを学びたい。それが自分にとって楽、かつ、面白い！」と非常にアグレッシブ。目標に対する向き合い方や情熱は文部科学省の展開する「トビタテ！留学JAPAN」でも影響を受けたといいます。「教育大学以外の人と話す機会が沢山ありました。宇宙飛行士になりたいと夢を真剣に語る友人もいました。普段同じ大学内とは違った感覚を刺激されるような…そんな人々たちから影響を受け、教育で日本と世界を繋ぐという、小学校教員の夢

から先、大げさに思われそうでも自分の夢をめいっぱい掲げ、やりたいことを堂々と言いたいと思ってしまうようになりました。

本学のいいところは、挑戦のための色んな制度が整っているところだといいます。「僕の場合は交換留学派遣制度や、企画が選定されれば経費が支給される学生プロデュースを利用しましたが、探せば何らかの支援を必ず得ることができます。そしてやっぱり「人」。先生に、こういうことに挑戦したいと伝えたら、学校と関係作ってみよう。教育委員会に行ってみようなど、さすが教育の専門家の集まりなだけあって知識とコネクションをめいっぱい使って機会を与えてくれる。先輩も後輩も同級生も優秀なので厳しくも親身なアドバイスと共に切磋琢磨できるし、僕のような挑戦したい人もいれば支えるのが得意な人など、行動に対する視点、情熱の色とかベクトルの違う人間が沢山いる。本学をめざす後輩たちには、大学に入ったらそんな恵まれた環境で自分の色となるような挑戦をしてほしいです」と語ります。

「人にまっすぐ」という本学のスローガンを地でいくような片山さん。堂々と夢を語る彼が小学校の教壇に立ち、彼のもとで児童たちが大きな夢へ向かって屈託なく手をのびし、伸び伸びと育っていく。そんな教室が目に見えようとした。

卒業生 そつぎょうせいキャッチ！ CATCH!

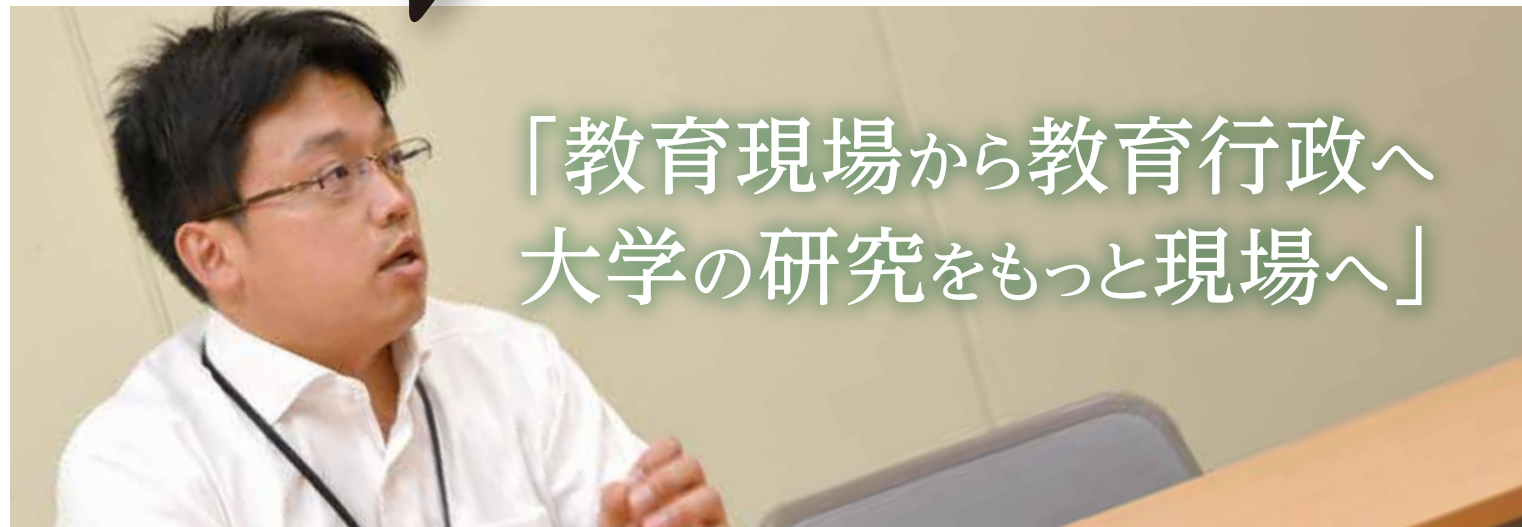
大阪教育大学を卒業して
社会で活躍するOB・OGに
近況や学生時代のアレコレを
インタビューしてきました。

4月から教育委員会に着任されたばかり、小走りで大阪市役所のロビーに現れたのは今回の主役の川村幸久氏。「大阪教育大学の学部生だった頃は、卒業後、先生になるしか考えていませんでした。母校の大学院に戻ることも、教育委員会で働くというキャリアも描いたことがなかったので、人生というのはわからないものです」と、飄々と、でも親しみやすい笑顔で話し始められました。

「卒業後、小学校教諭として15年間、目の前の子どもたちとの日々で全力で取り組みました。大学院で学ぶことになったきっかけは、長く体育の授業の研究部に所属していたこともあり、当時の校長先生からその分野を専門的に高めないと勧められたことでした。大阪市教員研修制度で大学院に戻り、今年3月に修了。あわせて教頭・指導主事試験に合格、卒業式の翌週に今回の異動通知をいただきました。学校現場に戻るのではなく、教育委員会で働くことになったわけです。現在の部署は、指導部 教育活動支援担当。大阪市の子どもたちの学力向上のための支援事業を行うとともに様々なデータを分析して各小中学校へ改善案を提案するなど、まさに大阪の教育改革の重要な部分を担う部門。「今の仕事は、学校の授業支援等をしていただいている学びサポーター等の配置や、理科授業を良くするための理科補助員の調整などがメイン。ひとつの学校から、今は大阪市全体という大きな視野で教育行政に関わっているということになりますね。」

大学院での2年間について何うと、「体育の授業構築を理論的に学ぶとともに、学校回りや、学会発表にも沢山参加しました。また、論文ではどのような問題意識から根拠となるデータをどう取るかなど、エビデンスの観点の必要性を改めて実感しました。何といっても一番の感動は、今まで現場で実践してきたことが理論に落とし込まれていくことでした。例えばなぜ倒立はこう指導する必要があるのかなど体育の授業で意識してきたことがピタリと研究者の理論にあてはまる。こういう理論があるから正しいのだと

「教育現場から教育行政へ 大学の研究をもっと現場へ」



川村 幸久さん

KAWAMURA YUKIHISA

大阪市教育委員会事務局
指導部 教育活動支援担当(学力向上)指導主事
(2002年度 小学校教員養成課程 保健専攻 卒業
2018年度 大学院教育学研究科 保健体育専攻 保健体育科教育学 修了)



指導に確信をもち、理論と根拠の存在を意識して教える意義が今さらながら本当に身に染みました。現場で実践を経験したのち大学院での学ぶことはそういう面で非常に価値あるものでした。ほかにも台湾実習、科研費申請、原稿執筆など、さまざまな活動に精力的に挑戦したといえます。「2年間、大学院生という立場と環境だからできること、教師に戻った時に活きと思うことは全部やるつもりで取り組みました」。

「卒業生の立場から言うと、後輩たちにも、今しかできないことにチャレンジしてほしいです。現場の教員や行政の立場で言うと、大学には今後もよい先生になる学生を沢山育ててほしい。採用試験を突破するための勉強ではなく、今まで通り学校教育をしっかりと支えていける教育者に育つための学びです。あと、今、担当している『『主体的・対話的で深い学び』の推進プロジェクト事業』、この事業は現場の先生が大学の先生から授業改善のための助言をいただくものなのですが、ここにはすでに箱崎雄子教授と井上功一准教授に指導助言をお願いしています。このように大学の先生方と協働して教育行政に活かすリレーションシップも大学院で築くことができました。先生方には素晴らしい研究を更に深めていただくとともに、ご活躍をわれわれ行政が教育現場に還元できるよう積極的に発信してほしい。」と本学への期待をこめました。

「現場の教員から教育行政へ、常に目の前のことに全力で向き合い、緑のある全てから学ぶという気概で来ました。いずれ校長先生にという最終目的もありますが、その過程も流れとご縁に任せてと思っています。休みの日は、息子が3歳なのでこれまで全力で向き合って一緒に過ごしています」と最後にアットホームな一面も伺いつつ、また急いで仕事へ戻られる背中に、更なるご活躍をうかがわせる頼もしさを感じました。

BAGの中身

夢や希望でいっぱいの大教大生のカバンの中を特別に見せてもらいました。

普段は動きやすい
ラフな格好でいることが
多いです。



自分らしく
自然体がモットー
たはらひろあき
田原 寛章さん
学校教育教員養成課程
保健体育専攻 4回生

本

ダン・カーターはニュージーランドのラグビー選手で、中学生の頃からの憧れ。この本はラグビーを頑張るモチベーションの一つになっています。

部活ノート

練習メニューや作戦、試合の目標と反省などを書き込んでいる「虎の巻」です。



プロテイン・果物

筋肉をつけるためプロテインは必須。エネルギー補給の果物は日によっていろいろです。

カバン

使い込んでファスナーが少し壊れていますが、まだ大丈夫。物は大切にしている性分です。



①練習用靴 ②筆記用部 ③財布 ④カバン ⑤ヘアワックス
⑥携帯電話 ⑦イヤホンケース ⑧イヤホン ⑨プロテイン
⑩果物 ⑪車の鍵 ⑫折りたたみ傘 ⑬教採参考書 ⑭部活ノート ⑮本 ⑯トレーニング ⑰練習着用チューブ



毎週水曜午後が練習日。



卒論のため図書館で調べもの。

自分らしいリーダー像を追究

柏原キャンパス人工芝グラウンド、水曜の午後。立派な体格のラグビー部員たちの中心で、ホワイトボードを使って指示を出しているのは、主将の田原寛章さんです。

カバンの中身はプロテインやトレーニング用のチューブ、練習着など部活に関するものが多くを占めますが、教員採用試験に関する資料や参考書も。奈良県の中学校教員をめざして勉強に励む一方、卒業論文の準備も始まり、忙しい日々を過ごしています。「卒論では、初心者の方のタックルの技術に関する研究をしようと思っています。タックルは根性論で指導されることが多いのですが、初心者が安全に習得するためにはどんな指導が効果的か調べたい」

今年ラグビーワールドカップが日本で開催されます。この機会に、ラグビーを知らない人が興味を持つてくれたら嬉しい。そして日本代表には、前回大会を超える成績を期待しています。10月には観戦に行く予定で、生で見るワールドカップをとても楽しみにしています。

そんな田原さんのモットーは「自分らしく」。主将としてリーダーシップを大切にしつつ、周りの意見も聞いて、自分らしく頑張りたいと語ります。「自分らしく行動すれば、どんなことも楽しめると思うので。気負いすぎない自然体で、残りの大学生活を駆け抜けていきます。」



大阪教育大学

附属学校園ウォッチ

Affiliated School | Osaka Kyoiku University



「学校安全の日」附属池田小学校行事 「祈りと誓いの集い」及び大学の事業を実施

平成13年6月8日、大阪教育大学附属池田小学校に刃物を持った男が侵入し、8人の児童の命が奪われ、13人の児童と2人の教員が負傷しました。事件から18年を迎えた6月8日、同小で追悼式典「祈りと誓いの集い」があり、児童、保護者、教職員ら約1400人が出席しました。午前10時12分、犠牲になった8人の名が刻まれた「祈りと誓いの塔」の鐘が児童代表の手で鳴らされ、出席者全員が黙とうを捧げて冥福を祈りました。

同小で唯一、事件当時から勤務する佐々木靖校長は、「悲しい事件を経験した本校には、あの事件の重大性を語り伝え、事件の風化を防止する責務があります。平成という時代は終わりましたが、いのちを大切にすること、何かの区切りになるわけではありません。本校の責務は、まだまだ終わらせません。」と決意を述べました。続いて6年生代表の児童3人が、困っている人に手を差し伸べ、寄り添える心優しい人間になること。みんなが命を大切にする社会になるよう発信し、この辛く悲しい事件の教訓を忘れることなく行動し、伝え続けていくと誓いました。

式典後は塔の前に献花台が設けられ、多くの児童や保護者らが花を供えました。献花した児童たちは「校長先生や先生方のいつも見守ってくれている姿を見て、私も大人になったら同じように子どもたちを優しく見守れるたくましい人になりたいです。」「6年生になって初めて、祈りと誓いの塔の前で集いに参加しました。すごく緊張しましたが、亡くなった8人の子どもたちの事を考えて黙祷し、歌を歌うことができました。」などと話しました。また、保護者は「これからも学校の安全について考え、子どもたちの安全につながる活動に積極的に参加していきたい。」と話しました。



ゼミ室ごぼれ話

第8話

《グローバル教育講座芸術学研究室I》

ト田隆嗣先生の芸術学研究室は、文化人類学、美学、美術史が専門で、現在7人が所属しています。先生が近現代の芸術学にも通じていることから、ゼミ生たちの研究テーマも宝塚、ディズニー、都市景観、地域におけるオーケストラの存在などさまざま。私は入学時から声優の専門学校に通っていて、卒業論文も声優に関する研究にするつもりです。今日は映画音楽を研究している先輩が訪ねてきて、ゼミ生同士の議論とは違った視点からアドバイスしてくれました。

ゼミで発表するたび、先生は日本語の使い方なども含めてかなり厳しく指導してくれます。これは卒論だけでなく、就職活動の面接にも役立っています。

顔いっぱいに笑みを広げて豪快に笑う姿が印象的な先生ですが、ゼミ生それぞれの特徴をきちんと見極めていて、悩んでいる時は的確な指針を示し、一生懸命頑張っているときには温かく見守り導いてくれます。ト田ゼミは今日も様々な個性がそれぞれ切磋琢磨しつつ、互いに良い影響を与え、ふくよかなハーモニーを奏でながら卒論完成に向けて頑張っています。

(小原悠佑さん 学部4回生)



天遊 vol.48 アンケート

●本号でよかった記事を下から選んでください。
(3つまで。その他は具体的にお書きください。)
【 】【 】【 】
(その他)
①特集 キャリア支援 ②授業探訪 ③新任役員紹介
④ラボ訪問 ⑤STUDENTS NOW! ⑥卒業生CATCH!
⑦BAGの中身 ⑧附属学校園ウォッチ ⑨ゼミ室ごぼれ話
⑩TOPICS

●取り上げてほしい記事がありましたらお書きください。
()
●本誌をどこで手にされましたか。
()
●本誌をお読みになってのご意見・ご感想などをお聞かせください。

●次号以降、毎月「天遊」の送付を希望される方は記載をお願いします。
(一度、送付希望ハガキをいただきました方は、再度お申し込みは不要です。)

どちらかに☑をしてください	☐ 次号以降、毎月「天遊」を送付希望します。 ☐ 今後「天遊」の送付を停止します。
ご住所 〒	
お名前	
お電話番号	

※お預かりした個人情報は広報誌「天遊」の送付以外には使用いたしません。

01 教員採用試験 大学推薦書の交付式及び壮行会を開催

いよいよ始まる教員採用試験を目前に控えて、教員採用試験の「大学推薦書交付式」を6月19日(水)、柏原キャンパスで開催しました。今年度は大阪府・大阪市・堺市・豊能地区を含む11の教育委員会等へ48人の推薦者が決定しました。出席した女子学生は「大学推薦者としての自覚を持って、精一杯頑張っていきたいと思います」と決意を語りました。

終了後には、7月から始まる教員採用試験に向けて、「絶対に合格してみせる」という強い決意と自信をもって試験に挑めるように毎年行っている「教員採用試験壮行会」を開催し、試験を目前に控えた学部生・大学院生約100人が参加しました。

栗林澄夫学長からの激励の言葉の後、2017年3月まで大阪府教育庁で教育監を務めた和田良彦副学長が「教員採用試験直前セミナー」と題して、求められる人物像、面接対策、模擬授業対策などを約60分にわたり講演しました。

最後に、手取義宏キャリア支援センター長が学生へエールを送り、全員で「教員採用試験に絶対合格するぞ! エイエイオー!」と一斉に拳を振り上げ、一丸となって合格を誓いました。



02 全学FD講演会「プログラミング教育の推進に向けて」を開催



2019年度第1回全学FD事業として「プログラミング教育の推進に向けて～背景とめざすべき方向性～」を開催しました。これは、来年度から小学校段階で必修となるプログラミング教育に向けて、教職員の理解を深めることを目的に実施したものです。

文部科学省でプログラミング教育の施策を情報教育推進室長として担当し、4月に本学に着任した新津勝二(にいづ かつじ)理事・事務局長が講師となり、小学校プログラミング教育必修化が急速に決定された背景や、これからの教員養成系大学に求められる役割について解説しました。次期学習指導要領では、言語能力と同様に情報活用能力が「学習の基盤となる資質・能力」として重要視されており、特に、小学校段階においては、各教科等の特質に応じてプログラミング的思考を身に付けるための学習活動を計画することが重要な一方、学校によってICT環境整備に大きな格差があるとの認識を示しました。そのうえで、「本学には附属学校と連携した先導的なプログラミング教育の実践研究や小中高系統的なカリキュラムの立案、教材開発やワークショップの実施などが求められている」と述べ、参加した教職員約180人は熱心に耳を傾けました。

(キリトリ) ✂



料金受取人払郵便



差出有効期間
令和2年
3月31日まで

切手不要

郵便はがき

5 8 2 8 7 0 5

(受取人)

大阪府柏原市旭ヶ丘4-698-1
大阪教育大学広報室 行



✂ (キリトリ)

※該当する番号を○で囲んでください

あなたのご所属を教えてください

- | | | |
|------------|-----------|-----------|
| ① 本学学生 | ② 本学卒業生 | ③ 本学保護者 |
| ④ 本学教職員 | ⑤ 附属学校生 | ⑥ 附属学校保護者 |
| ⑦ 附属学校卒業生 | ⑧ 附属学校教職員 | ⑨ 名誉教授 |
| ⑩ 教育委員会関係者 | ⑪ 他大学教職員 | ⑫ 他大学学生 |
| ⑬ その他() | | |

公式 Twitter

@OsakaKyoikuUniv

公式 facebook ページ

https://www.facebook.com/OsakaKyoikuUniv

公式 Instagram ページ

@osakakyoikuuniv

各種イベント、ニュース等を配信しています。
是非フォローしてください。

公式 アプリケーション

Android・iOS
スマートフォン対応アプリ

天遊の
動画も
見れる

取材時のオフショットや、
紙面では伝えきれない
イキイキとした学生・熱
意のこもった教授などの
ナマの声を動画で配信!

〈詳しい使い方はホームページ
をご参照ください〉

App Store・Google Playから検索。



大教大



「天遊」とは

「天遊」とは荘子の言葉で、人間の心の中に自然に備わっている余裕を表しています。キャンパス統合移転の記念碑に銘文として刻まれており、揮毫は故水嶋昌(山耀)本学名誉教授によるものです。「天遊」の読みからとった「TenYou」は、「十人十色、その中のあなた」というメッセージを込めています。



本誌はユニバーサルデザインフォントを使用し、再生紙に印刷しています。
この印刷物は、16,000部を712,000円で、すなわち1部44.5円で作成しました。